工業部会通信

（発行）
相模原商工会議所工業部会

（編集）
かながわ経済新聞社
代表：千葉龍太
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
TEL：042（851）2021
FAX：042（851）3532

プリントしてご自由にお読み下さい。

相模原愛川ＩＣ～高尾山ＩＣ間

28日午後３時に開通

都心経由せず目的地に

混雑解消などに期待

国土交通省・相武国道事務所とＮＥＸＣＯ中日本（中日本高速道路）は、圏央道（首都圏中央連絡自動車道）の相模原愛川ＩＣ（インターチェンジ）～高尾山ＩＣ間（延長14・8キロメートル）が28日午後３時に開通すると発表した。東名高速道路、中央自動車道、関越自動車道が高速道路で接続され、都心を通らず目的地に行くこと可能になる。また、開通区間と並走している国道16号、１２９号の混雑も抑えられるとしている。

「環状道路」の機能に

同日に開通を記念した式典が行われる。今回、圏央道は総延長の約７割が開通することになる。

同事務所の発表によると、相模原愛川ＩＣ～高尾山ＩＣ間の開通により、都心経由や一般経由だった広域交通が転換。圏央道が「環状道路」としての機能を発揮すると見込んでいる。

これにより、長距離移動の大型車が集中していた国道16号線の混雑、慢性的な渋滞が生じていた都心部の環状８号線の課題解消が期待できるという。

物流分野では大幅な効率化につながり、時間短縮や広域配送に寄与すると見込んでいる。全日本トラック協会は「運転手の拘束時間の短縮のほか、３環状道路の整備による広域配送が可能になる」とコメントした。

圏央道の整備を見越し、県央地域には、建設中の「ロジポート橋本」、昨年稼働した「ロジポート相模原」など、大型物流施設の整備が進んでおり、今後も同様の施設の進出が予想される。

一方、開通により観光面での経済効果も挙げている。具体的には、新たに３００万人が２時間以内に湘南地域に行けるようになるとみている。

（記事提供・かながわ経済新聞社）

開通合わせて厚木ＰＡ誕生

ご当地グルメも

ＮＥＸＣＯ中日本は、28日の相模原愛川ＩＣ（インターチェンジ）～高尾山ＩＣ間の開通に合わせ、厚木パーキングエリア（ＰＡ）をオープンすると発表した。

内回りと外回りの２カ所。同社のグループ会社、中日本エクシスが運営する。

厚木ＰＡでは、地元で愛されている名物グルメに加え、〝ご当地グルメ〟を競う祭典「Ｂ－１グランプリ」の出展団体が監修した「全国ご当地グルメエリア」も設ける。

ＰＡでは初めて本格的なご当地グルメが味わえるという。ご当地グルメは３カ月ごとに入れ替わるという。

第一弾として「夏をのりきる麺まつり」を開催。内回りには「勝浦タンタンメン」「横手焼きそば」、外回りには、「三崎まぐろラーメン」「なみえ焼そば」などが出展する。

（記事提供・かながわ経済新聞社）

コラム　工業人

高齢化が進む我が国にとっては、外国人観光客と「滞在型」外国人の誘致など、国際化の促進は避けて通れなくなっている。政府は現在、90日間の滞在を認めているものの、高所得外国人に限り、１年間の滞在を許可すると決定した。

世界はどうか。周囲９カ国に囲まれるドイツ国内は、10人に１人は外国人だ。シンガポールは多民族国家として成立。人口５００万人を擁する。国民１人あたりの所得も日本を抜いている。

これからの国際化時代、我が国の成長を考えた場合、必要なことがある。それは、国外の「ヒト・モノ・カネ」の動きを、我が国に通す流れを築くことであると考える。

高所得の外国人に長く滞在してもらうためには、あらゆる場所が英語標示で分かりやすくすることが大前提である。

相模原は圏央道の開通により、より便利になる。とはいえ、道路標示は、まだまだ日本人にしか分からない。まして日本人が運転していても間違えてしまうような、難解な表示すらある。

真の国際化を実現するには、まずは交通インフラなど、身近なところから見直すことも忘れてはならない。

大型物流施設「ロジポート」

橋本に来年１月完成

相模原市緑区大山町の旧セントラル自動車跡地に、ラサール不動産投資顧問（東京都千代田区）と三菱地所が開発を進めている大型複合物流施設「ロジポート橋本」が２０１５年１月末に完成する＝完成予想図。

ラサールなどが、旧セントラル跡地に開発する「ロジポート橋本」は、敷地面積約６万７千平方メートル。ここに地上５階建てで、総床面積約16万２千平方メートルの施設を建設する。

免震構造を採用。４０フィートコンテナ車が各階に着車できる大型ランプウェイを完備する。複数の企業に入居してもらい物流機能を提供する「マルチテナント型」の施設にする。

ラサールでは、施設周辺を「相模原エリア」と位置づけ、物流施設の開発を進めている。相模原エリアは、今月に圏央道「相模原愛川インターチェンジ」が開通し、東名高速道路とも直結。都心や横浜市内への配送時間短縮が見込まれることから、物流施設に対するニーズが高いという。

なお、ラサール不動産投資顧問は、米ラサールインベストマネージメントの日本法人。（かながわ経済新聞社）